

第 61 回全国自治体病院学会

2023 年 8 月 31 日、9 月 1 日に札幌コンベンションセンターで開催された全国自治体病院学会に参加した。

「持続可能な地域医療を構築せよ」というテーマを掲げて様々な講演がなされた。「AI () や DX (Digital Transformation) の導入でこの課題を乗り越えろ」という姿勢が随所に見られた。詳細は割愛。

最終日、道民公開講座で元 WBC 監督栗山英樹氏と北海道大学総長寶金清博氏の講演を拝聴した。

会場は超満員。栗山氏の話は、選手起用や采配についてであり、「信じる力」で乗り切った（優勝できた）ことが納得させられる内容であった。源田選手の塁上で招いた骨折が、紆余曲折を経て幸いにも選手間の絆を強めたことが話の半分を占めた。今回栗山氏の話聞いてみて、もう一度今回のメンバーで WBC を戦っても優勝できないだろうし、他の監督であつたらまず無理であろうと感じた。最後の 3 分間、大谷翔平選手で話を締めた。大谷翔平とはどういう選手か？一枚のスマホの動画で語られた。日本ハム時代のクリスマス・イヴの深夜 1 時に、バッティング練習をしている姿が映っている。他の選手が浮かれ遊び、眠っている時間に黙々とバットを振っているのだ。私はこの話が一番好きである（NHK の番組でも紹介されていた）。この話で講演を締めた栗山氏に益々好感を持つようになった。

続いて聴衆の半分以上が席を立ってから寶金清博氏の講演が開始。タイトルは「地球の健康、社会の健康、人間の健康」で、大変スケールの大きな話であった。札幌医大の教授時代に私は数年間彼と在籍が重なっているが、そのころから大変頭の切れる、話のうまい人であると認識していた。狭い意味での人間の健康だけを考えていたのではもう駄目なのだとすることがよくわかった。地球の温暖化（というより沸騰）、差別・貧困・戦争等も視野に入れなければならないのだ。最後に、国立大の総長らしく日本における科学力の凋落を嘆いていた。科学力を押し上げながら、地域医療も充実させることは至難の業であるが、それを推し進めなければならない。ハードウェア（国土、資源、人口）の向上は無理なので、教育や医療の底上げが喫緊の課題である。既存の方略とは違った新たな教育方略が求められている。